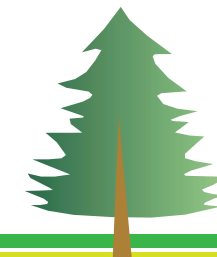




被害木を薪にしてナラ枯れを防除する

大橋 章博



はじめに

カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）が穿入することによって生じるナラ枯れ被害は年々拡大しており、終息する気配はありません。被害の拡大を阻止するには薬剤を使って防除だけでなく、被害木を放置しないよう有効利用して、被害の低減を図っていくことも大切です。

被害木の最も身近な利用法は「薪」です。ところが薪は木を割ればすぐに使えるわけではなく、通常一年ほど乾燥させてから利用します。このため、薪を燃やす頃には材の中にカシナガがいなければかりか、乾燥している間にカシナガが脱出し、新たな被害を引きおこす恐れがありました。

しかし、今回、薪を適切に作ればカシナガを効果的に駆除できることが判ったので、その概要を紹介します。

幼虫の習性を利用

薪を作る要領で被害木を割ってみると、その断面にはカシナガの坑道が多数現れます。しばらくすると、この坑道から幼虫が次々と這い出てくる様子がみられます。一度坑道から出てしまった幼虫は生育できず、やがて死亡します。

そこで、この習性を利用して、被害木を薪にすることで、どれくらいカシナガを駆除できるのか調べてみました。



割材面にみられるカシノナガキクイムシの坑道

薪割りの手順

2011年3月11日にコナラ枯死木6本を伐採し、4月5日に地上高5mまでの部位を玉切りして約30cmの長さの丸太を90本作成しました。翌日、これを丸太区、薪区に振り分け、丸太区は丸太のまま樹皮が地面と接するように林内に静置し、薪区は丸太を割って同じ林内に積み上げました（写真左）。その後、成虫が羽化する直前の6月3日にトラップを設置して、丸太や薪から出てくるカシナガを捕獲しました（写真右）。



林内に積み上げた薪

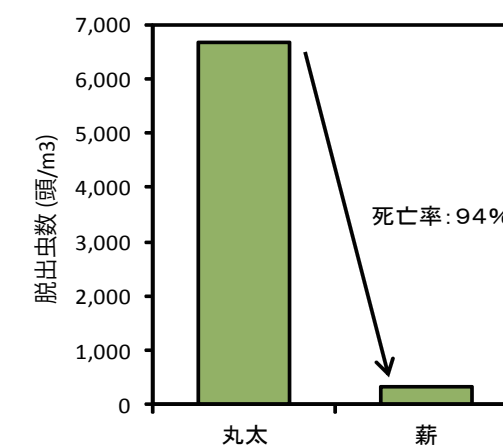


羽化トラップの設置状況

高い駆除効果

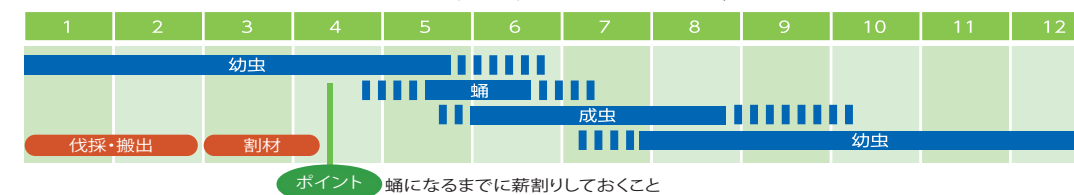
カシナガの脱出数は丸太区では 6,678 頭 /m³ であったのに対し、薪では 330 頭 /m³ で、割材による死亡率は 94%でした。幼虫が蛹になる直前に割材したにもかかわらず、カシナガを駆除することができました。

今回の試験から、秋から冬の間に被害木を伐採し、春までに割材すれば、カシナガを駆除できることが確認できました。重要なのは、蛹になるまでに薪割りをすませることです。割材する場所はどこでも構いません。山の中で割材する必要はなく、丸太を作業しやすい場所へ運び出して割ればよいのです。また、割材の工程は、通常行われている薪作りのスケジュールとなんら変わりません。言い換えれば、防除のために特別な作業をする必要はなく、基本通りに薪を作れば、カシナガの防除ができるのです。



丸太と薪からのカシノナガキクイムシ脱出数

カシノナガキクイムシの生活環



おわりに

今回紹介した方法では材内のカシナガを完全に駆除することはできません。したがって、被害が発生していない地域へ被害材を持ち出すことは厳禁です。また、被害先端地や微害地域へ移動させることも避けるべきです。あくまでも、被害がすでに蔓延している地域の中で行ってよい方法であることを理解しておいてください。